

序



「在宅医療」の実践論はまだ十分に広く整備されているとはいえず、多くの在宅医療の現場では、なんとか自分たちの型に落とし込みながら悪戦苦闘しているのが現状ではないかと思います。私たちは現在、藤田医科大学 総合診療プログラム（藤田総診）を軸として、豊田地域医療センター、半田中央病院、いしぐろ在宅診療所と3機関で900名程度の訪問診療を行っています。特に豊田地域医療センターには訪問看護／リハビリステーション、地域包括／基幹包括／居宅介護支援センターもあり、地域の多職種連携の要としても大きな役割を担っています。7年前にゼロからスタートした私たちの在宅医療はまだまだ道半ばではありますが、私たちが実践している在宅医療を余すところなく隅々まで伝えることで、同じようなシチュエーションで働いている人が今実践しているものをよりよいものにできるようになってほしい、また、新しく在宅医療をはじめようと思う人のバイブルになってほしいという想いから本書を企画しました。そして私たちの在宅医療のスキルやリアルを受けとった人がどんどん増え、さらに自分色に味付けしたものを学会やSNSなどで発信し、よりよいものになって自分たちにも返ってくる、こうした正のスパイラルが拡大しながら、施設の垣根を超えていくことが私たちの想いでありめざす未来の形です。

本書は、在宅医療にかかわりのある医師が「明日から使える!」、関心のある医師が「在宅っておもしろい!」と思えるような一冊になっています。特に、訪問診療の業務のリアル（第3章）、在宅医療における専攻医や研修医・学生教育（第4章）、さまざまな規模の在宅医療の運営（第5章）、この3つについては、ほかではなかなか知ることのできない内容で、知りたいと思う方も多いのではないのでしょうか。自分たちのプラクティスをありのまま広め、その先でさらなる分化・進化を遂げて自分たちのもとに返ってくる、この本がそんなよい循環を生み出すきっかけになればと思います。

2022年3月

編者を代表して

豊田地域医療センター 総合診療科 小笠原雅彦